

題名：プロスポーツチームのデジタル・コンテンツ戦略——鹿島アントラーズの運営・サポーターへの聞き取り調査

学籍番号：20191194

氏名：中村健太郎

指導教員：周東美材

卒業年度：2023 年度

本論文では、プロスポーツチームのデジタル・コンテンツにおける狙いと実際に受け取るサポーターの求めるものには違いがあるのかを明らかにした。

本論文の研究においては、プロサッカークラブである鹿島アントラーズのデジタル・コンテンツ担当者1名と該当クラブを応援しているサポーター4名とした。

研究方法としては、生の声を聞くことで、発信する際の狙いや、運用している中での課題感、実際に発信に対してどう思っているかをより深く知ることが期待できると考えたため、インタビュー調査とした。

先行研究では、Twitterの投稿から観客動員の増減に関する研究を行っていたが、本論文では、クラブとサポーター双方の生の声からクラブ側の本当の狙いを明らかにすると同時に、サポーター側の発信の受け取りにも焦点を当てることによる新たな知見を期待して研究を行った。

1章では、デジタル・コンテンツの中でもコミュニケーションツールとして扱われるSNSについて記述し、気軽に触れ、誰もが参加することができるSNSが、社会やスポーツとどのようなかかわり方をしているのかを明らかにした。

2章では、鹿島アントラーズの事例をもとにプロスポーツチームがどのようにデジタル・コンテンツ戦略を行っていくのかを明らかにした。

3章では、2章のクラブ側の意見を踏まえ、プロスポーツチームのデジタル・コンテンツの発信をサポーター側はどのように受け取っているのかを明らかにした。

4章では、2章のクラブ側へのインタビューと3章のサポーター側へのインタビューに基づき、双方の考えをまとめ、次に双方の考えから見えたスポーツチームのデジタル・コンテンツのあり方について論述した。

結論としては、クラブとサポーターの間でのデジタル・コンテンツに関する認識は多少のギャップが生じていることが明らかになった。先行研究に対しても、新たな知見を2点付与することができた。